

平成 30 年 12 月 6 日

京口門だより No. 62

今年は自然災害の多かった年で、いまだに気候不順です。広島県ではこの師走に入ってもまだ復旧していない鉄道路線があります。被害にあわれた方には人知れずご苦労があろうかと思えます。『うき事はしらじ師走の鳶鳥』（樗良）

最近ある関西のテレビ局で、風邪のひき始めに葛根湯は効かない、というタイトルの番組が流されたそうです。風邪に総合感冒薬パブロンを服用した群と葛根湯を服用した群とを比較したところ、改善率がいずれも 20%程度で、効果がなかったそうです。ある京大病院の医師の発表だそうです、大変お粗末な研究と言わざるをえません。

現代医薬品の総合感冒薬は鎮痛解熱成分、咳止め、抗アレルギー成分、ビタミンなど含んでいる薬で、商品によって名前が異なっていますが、どれも同じような薬になっています。一方、漢方薬の風邪薬は葛根湯だけではありません。たとえば、桂枝湯、麻黄湯、麻黄附子細辛湯、柴胡桂枝湯、香蘇散、柴葛解肌湯、八解散、桔梗湯、半夏散及湯、藿香正气散などなど、それぞれ定まった条件によって使い分けられます。ですから漢方では風邪薬などと一緒ににはできません。おなじ風邪でも桂枝湯を使うような体が弱く、風に当たると寒気はするも、じわじわと汗のでているような状態の人に、比較的体も強く、悪寒や頭痛とともに関節が痛く、汗もでないような状態に使う麻黄湯を使うと、反って有害な反応が出てきて、風邪が治るどころか悪化してしまいます。現代医薬品の総合感冒薬のようにどれでも同じという訳にはいきません。であるのに、風邪の初期といってパブロンと葛根湯を比較検討するのは、全く根拠のない条件でおこなっているとしか言えません。比較することは誤っています。

何も漢方薬をおとしめたからと言って、声を荒だてているわけではありません。比較検討するなら正しい条件のもとに研究していただきたいと思えます。それは科学的研究の基本条件ですから。

また、別の医師は風邪薬というものは症状を取るだけの薬で、風邪を元から治すような薬は無いとも言っていますが、これも風邪に正しく漢方薬を使った経験がないからです。漢方薬を正確に使えば、短期間で風邪は治りきります。

